



東日本大震災から五年目を迎える
平成二八年三月一日に慰霊法要と
追悼の朗読会を行った。

3・11の報告

- 一、情けは人の為ならず
- 二、名前には、その人その人の「命の意味」が込められている
- 三、「はっちゃん」が全てを整えてくれた
- 四、これみろ、十億かけてダイエットしたとお！
- 五、きずな桜
- 六、次の一步のことだけ、次の一呼吸のことだけを考える

『3・11からのことづて』
著・渡辺祥子を読む



者からご焼香を賜った。



東北ではこの日各地で慰霊の行事が行われ曹洞宗寺院も忙しくしており、私の修行仲間が埼玉県群馬県から手伝いに来てくれた。
午後一時より慰霊法要を執り行い参列

永松だより

松源寺通信 第8号

松源寺開創 500年
平成33年・2021年
みなさまのお知恵とお力を合わせていただき
この佳きめぐりあわせを寿ぎましょう



会場を永松閣(庫裏二階)に移し、朗読会を行った。
平日の午後の時間帯にも関わらず檀信徒並びにご近所の方々にもご参加頂き、午後二時四十六分に黙祷を行い総勢四十五名で会を閉じた。



今後の予定

- 五月二十八日
永松会総会(十七時)
六月十九日～二十日
研修旅行(大宮東光寺ほか)
六月二十七日
特派布教 布教師中野重孝老師
第一教区護持会研修
会場・福寿院様(十時～正午)
七月十日
第二回防災訓練(土樋町内会共催)
八月十三日～十五日
お盆
八月十四日
当山大施食会(十三時三十分)
九月十九日～二十五日
秋彼岸
九月二十九日
両祖忌
九月二十九日～三十日
第一教区護持会一泊研修会
十月五日
達磨忌
十月二十一日
観音堂御開帳供養(十三時)
Yae15thコンサート(参加費五百円)
十一月四日
祠堂法要(十時三十分)

旅行行程表			* 出発時の昼食より帰着日の昼食までご用意致します。 ― バス ㊦ 屋敷
期日	行 程	宿 泊 地	
1 6/19 (日)	8:30 松源寺 ― 宮城I.C ― 宇都宮I.C ―	磯部温泉	
	11:30 ― 餃子館 ㊦ ― 岩槻I.C ― 大宮「東光寺」 ―	磯部 ガーデン ホテル	
	12:30 ― 松井田妙義I.C ― 17:00 磯部温泉		
2 6/20 (月)	8:30 磯部温泉 ― 9:00 世界文化遺産【富岡製糸場】 ― 10:30 藤岡I.C ―		
	11:45 川越I.C ― うなぎ ㊦ 小江戸川越散策【時の鐘・菓子屋横丁等】 ― 13:00		
	18:15 川越I.C ― 宮城I.C ― 松源寺		

『ことばのビタミン』
村上信夫 著 (近代文藝社)
定価:1,995円(税込)



1953年、京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。現在は、全国を講演で回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送「日曜はがんばらない」月刊『清流』連載対談などで、新たな境地を開いている。東京・恵比寿で毎月1回「村上信夫のトークライブ」を開催。各地で『ことば磨き塾』主宰。

平成27年度 清掃料収支計算書

収入合計	2,765,000円	5千円×553件 (平成28年3月31日)
支出合計	2,931,388円	
差引残額	-166,388円	

【支出内訳】		
平成27年4月27日	259,200	墓地清掃① 三共ライズジャパン
6月26日	44,280	境内清掃 五葉園
"	46,910	境内草取 シルバー人材センター
8月31日	259,200	墓地清掃② 三共ライズジャパン
"	36,430	境内草取 シルバー人材センター
"	356,400	境内清掃 五葉園
"	16,200	墓地清掃 三共ライズジャパン
"	259,200	墓地清掃③ 三共ライズジャパン
"	421,200	境内清掃 五葉園
9月28日	77,760	お盆警備員
10月26日	259,200	墓地清掃④ 三共ライズジャパン
"	32,400	トイレ点検 トーエイライジング
11月30日	95,040	法要清掃費 ダスキン
12月28日	259,200	墓地清掃⑤ 三共ライズジャパン
"	249,568	年末清掃 ダスキン
平成28年1月25日	259,200	墓地清掃⑥ 三共ライズジャパン

★大宮・東光寺
大本山總持寺貫首成田芳齋禪師様が住職されたお寺。
★富岡製糸場
明治5年に明治政府が日本の近代化のために設立した模範器械製糸場です。現在まで変わらぬ姿で残されています。
★小江戸川越
江戸時代に新川岸川の舟運によって江戸の粋や文化が運ばれ繁栄し、江戸風情を残す町。

◆締切／平成二八年六月十日
◆期日／平成二八年六月十九日(日)～二十日(月) 《一泊二日》
◆会費／二六、八〇〇円
◆人員／三十名(最少催行人数二十五名) ※添乗員同行
◆申込／申込書にご記入いただき、申込金(二万円)を添えてお申込下さい。



曹洞宗・大宮山「東光寺」本堂

第149回
平成28年 6月1日(水)
会場 楽楽楽ホール
ゆいしき
やさしい唯識のお話
千葉県宝林寺住職 千葉 公慈 老師

平成二八年度
講師紹介
ZEN

第151回
平成28年 10月27日(木)
会場 楽楽楽ホール
く どう
はてしなき求道の旅
東北福祉大学学長 大谷 哲夫 先生

第150回
平成28年 8月3日(水)
会場 楽楽楽ホール
仏教と神道
作家 井沢 元彦 先生

第153回
平成29年 2月1日(水)
会場 楽楽楽ホール
今ここをどう生きる
～摂ぶ人生と授かりとしていただく人生と～
愛知専門尼僧堂長 青山 俊董 老師

第152回
平成28年 12月1日(木)
会場 東京エレクトロホール宮城
み る く ゆ が ふ
弥勒世果報
沖縄民謡歌手 古謝美佐子さんとうないぐみ



弘化二年冬十一月
同藩國分章撰文男基剛又門人立石集顔書摹勒

無盡先生歿矣嗣子暨門人瘞敘而葬之俾余銘其墓先生初諱清則後改基則字子法稱利吉無盡其
号世仕僊臺親生考佐藤君諱則次妣國分氏先生其第二子也會同僚石川徳右衛門君天無嗣先生
年甫六歲出承其後因胃石川氏及稍長從樂齋田邊先生肄經業通大義性尤嗜臨池學書法於藤塚
知明居恒求古今人墨蹟筆札賞鑒臨撫不知倦其書規倣二王出入歐虞而自成一家最善擘窠大書
又受戸田氏刀法於横山元林小笠原氏軍禮於木名瀬且賢旁通割烹插花點茶之技何其事之勤也
文化丁卯遊京師登持○院三位藤公諱基延之門得入木書學之傳成辰魯細亜○蝦夷○幕府命
東諸牧遣成備邊○本藩亦與馬先生以兵具掛又宿割金遣從其行文政己卯再赴京師藤公嘉其篤
志悉授入木秘訣又許用萬壽亜相三十二世入木相承奥陽書學進士之印章且賜偏 皆異數也先
生於是改日基則既還寄絹楮索書者無靈日四方來學者蓋二千有餘人先生為人外豪放内謹嚴而
機驚過人蝦夷之役路由南部宿大畑驛會失火先生急借舩載銃炮兵仗而避之人皆曰火遠且我真
上風何避之為先生曰風之變不可知既風果變延焼殆盡衆始慚服其在成舉措多○類○官屢○賞
其動又○久余志利北○考○害述折衝之策旁及風土物産先生在仕途凡五十七年 褒賜銀帛前
後十一次云先生受才○施有貧不○給者自減衣食以賙之又與名縞碩匠相往來問佛氏之學於故
覺範寺溪禪老師其接人未嘗置城府談雜戲○無貴○少長皆得其歡心○其辭京師縫殿頭尾崎君
贈以一絃琴先生自擔而歸時撫以助飲其○落有如○者○藩封内佐具叡島屋嶺二祠實係○○○
天朝祀典○載而廢亡已久先生嘗受神學於菊田師生於是慨然欲興之○諸載參諸故老口碑○飯
門榛莽獲古錢若干貫古鏡一枚民人子來經始亟成人以○神感所致可謂能行其所學矣弘化○○
二月六日端坐斂○奄然終於家嗚呼哀○距生安永○○○四月五日得齡七十三葬○城南松源寺之
宝室八卷氏舉一女養澤木君諱○命次子為嗣以女配之即基剛也顧余之幼也奉提命之教而一旦
漫遊不相見者殆二十年今來執○今昔之感○可勝言○况先生母氏○余為從祖姑則墓銘之請烏
乎辭因叙其性行○歷之概係以銘詞曰

覃思藝文致力武事焚膏繼○勉勵不啻再赴京畿書
學傳秘今子今孫承緒不墜其成蝦夷見機應變展如
之人邦家之選維是達士學究精○死生知○其歿如
歸片碑千載刻字成缺○則成缺德音不滅

高祖承陽大師略伝



道元禪師

高祖大師
(道元禪師、
希玄と号
す)は、土
御門天皇の
正治二年(一
二〇〇)一

月二日、陽曆に推歩すれば一月二十六日、
内大臣久我通親公を父に、摂政藤原基房
公の女を母として京都にご誕生。建保元
年(一二一三)天台座主公円僧正を師と
して比叡山において剃髪得度。翌年「本
来本性、天然自性身、什麼としてか三
世の諸仏は発心し成道するや」という法
門上の疑団解決のため、園城寺に公胤僧
正を訪い、その指示によつて建仁寺の栄
西禪師に参じ、榮西示寂の後、高弟明
全和尚に師事して、弁道精進、霜華九廻。
貞応二年(一二二三)の春、二十四歳
にて入宋、知識を兩浙にとぶらい、五家
の禪に参じ、ついに天童山如浄禪師の印
可を得て、釈尊五十一世の大法を伝え、
安貞元年(一二二七)の秋帰国。直ちに
建仁寺に入り『普勸坐禅儀』を著し、寛
喜二年(一二三〇)深草に閑居。ついで、
観音導利興聖宝林寺を開く。寛元二年(一

二四四)越前志比庄に傘松峰大仏寺を建
立、のち吉祥山永平寺と改称。宝治元年
(一二四七)の夏、執権北条時頼の特請を
受け鎌倉に下向、説法教化半年に及び、
翌三月帰山。建長元年、後嵯峨院より紫
衣を賜うも「却つて猿鶴に笑われん、紫
衣の一老翁」といつて、一生これを用い
られなかった。
建長五年(一二五三)の八月、病を得
て、京都高辻西洞院の俗弟子覚念の邸で
療養せられたが、二十八日(陽曆九月二
十九日)に、
五十四年 照第一天
打箇踣跳 触破大千
嘆
渾身無覓 活陷黄泉
の遺偈を示して入滅せられた。
孝明天皇は「仏性伝東国師」と謚せら
れ、明治天皇は「承陽大師」の号を賜う
て、大師の高風を称揚された。
御著『正法眼蔵』は、三十二歳の時「弁
道話」を撰せられて、立教開宗の旗幟を
鮮明にされたに始まり、五十四歳の正月
「八大人覺」を輯成されるまで、九十五
卷に及び、その他『永平大清規』二卷、
『学道用心集』一卷、『永平広録』十卷、
『宝慶記』一卷、『傘松道詠』一卷、『随
聞記』六卷、『拈評三百則』三卷、及び
『普勸坐禅儀』一卷等の著述がある。

年次	西曆	年齢
正治二	一二〇〇	1
建仁二	一二〇二	3
承元元	一二〇七	8
建暦二	一二一二	13
建保元	一二一三	14
"	一二一四	15
"	一二一七	18
貞応二	一二二三	24
元仁元	一二二四	25
嘉禄元	一二二五	26
安貞元	一二二七	28
寛喜二	一二三〇	31
"	一二三一	32
天福元	一二三三	34
嘉禎二	一二三六	37
寛元元	一二四三	44
"	一二四四	45
"	一二四六	47
宝治元	一二四七	48
"	一二四八	49
建長元	一二四九	50
"	一二五三	54

内大臣久我通親公、藤原基房の女を両親とし京
都に生まる。
父を喪う。
母を喪う。
比叡山の麓に外舅・良頭(また良観)の庵室を
訪ね出家を乞い、横川般若谷千光房に入る。
天台座主公円について剃髪し、戒壇院で受戒。
比叡山を辞し、園城寺公胤に疑問を質し、その
すずめで建仁寺の榮西に参ず、この年榮西入寂。
建仁寺に明全の会下に入る。
明全と共に京都出発、入宋し慶元府につく。つ
いで天童山景德寺に無際了派に掛錫。
諸山歴訪。
再び天童山に上り、如浄禪師に参ず、この年明
全入寂。
如浄禪師に嗣法。秋、肥後川尻に帰国。建仁寺
に入り『普勸坐禅儀』撰述。
山城深草安養院に閑居。
『正法眼蔵弁道話』撰述。
山城観音導利興聖宝林寺を開く。
興聖寺僧堂開單、懷獎首座となる。
越前志比の庄に向かい吉峰寺に入る。
傘松峰大仏寺開堂供養。
大仏寺を永平寺と改む。
北条時頼の請をうけ、在谷信徒教化のため鎌倉
下向。
鎌倉より帰山、傘松峰を吉祥山と改む。
後嵯峨院より紫衣を賜る(一説に建長二年)。
『正法眼蔵八大人覺』撰述、前年秋よりの病重
くなり、京都に入り、高辻西洞院覚念の邸に入
寂す。

高祖承陽大師略年譜

道元禪師の花鳥風月 ―雨―

聞くまにまた心なき身にしあれば

おのれなりけり軒の玉水

道元禪師

「鏡清雨滴声」と題されたお歌。鏡清とは
人の名前で鏡清道愆禪師のことである。鏡
清雨滴声は碧巖録第四十六則にある公案。

鏡清が坐禅をしていると、窓の外でポタ
ポタ音がする。何の音かと修行僧に尋ねる。
僧は雨の音ですと答えた。それはその通り
であるが、鏡清が言わんとするのは、その
雨音に捉われてはいないかということであ
ろう。

即ち、雨音とそれを聞く自分という二つ
の状態になっているなら、それはまだ迷い
の姿である。聞くものと聞かれるものと、
一つに溶け合うように、自分と雨音が一体
となっている。所謂、無心に雨音を聞けなら、
そこに迷いの入るべくもなく、悟りの世界
が現じられよう。

さて鏡清にどれだけ坐禅を行じているか
と問われたとして、心もとない限りである。
ましてや、心静かにして雨音が耳に入って
くるなどということは、稀かもしれない。
心騒がしい現世にあつて、息調わぬ坐禅
の日々ではあるが、せめて鏡清の名に思い
を馳せ、鏡のように清らかな心磨きとなる
坐に親しみたいものである。